

緊急声明

過去最悪の感染状況を直視し、速やかに感染抑制に全力を挙げることを要請します

2021年4月15日

大阪民主医療機関連合会会長	大島 民旗
耳原総合病院病院長	河原林正敏
西淀病院病院長	福島 啓
コープおおさか病院院長	西上 喜房
東大阪生協病院院長	橋田亜由美

吉村大阪府知事が1週間前倒しで2月28日に緊急事態宣言の解除を行って以降、大阪の新型コロナウイルス感染者数は過去最悪のペースで増加しています。特に今回の流行は変異株の影響もあり、かつてないペースで重症者が増えており、4月14日時点で確保病床224床に対して重症者は239人とオーバーフロー状態であることが公表されています。昨日午後状況では、すでに重症ベッドは「50人待ち」の状況とのことです。

民医連に加盟している大阪の4病院の状況をお伝えします。耳原総合病院では重点医療機関として疑似症用2床を含む5床を届出していますが、この間これを上回る受け入れの状況が発生しており、4月14日現在、陽性患者5名、疑似症患者6名が入院しています。うち1名の患者さんは重症化して人工呼吸管理を行っており、ECMOも想定した対応を府フォローアップセンターに相談しましたが転送困難な状況となっています。西淀病院ではコロナ受け入れ病床1床に対して3名のCOVID-19の方が入院され、うち1名は人工呼吸管理が必要な重症患者ですが、まだ転院のめどがたっていません。発熱外来は1日12~20枠ですが、連日その枠を超える患者数に対応しており、PCR陽性率も20%以上に上がってきています。コープおおさか病院では、連日発熱などの患者さんが押し寄せ、コロナ陽性者もこれまでにない勢いで確認されております。コロナ受入医療機関ではありませんが、近くの救急隊からコロナ陽性患者の受入要請がある状況です。東大阪生協病院は、発熱外来で3月の陽性率10%から4月は陽性率21%と急増しており、診断した中等症患者の転送先がなかなか見つからず、動線を分けられない小規模病院であるにもかかわらず、保健所からは当院への入院を強く要請されました。

患者を適切な治療の場で治療できない状態が大阪中で発生しており、すでに「医療崩壊」を起こしています。吉村知事が19日まで判断を待つことは、感染者のピークアウトを遅らせることでしかありません。大阪のコロナ患者の死亡率は2%で、1日1000人の感染者が発生することは、のちに1日20人の命が奪われることを意味していますが、治療可能なベッドが無ければ、死亡率は比較にならないほど上昇します。私たちは吉村大阪府知事と特に感染流行の中心地である松井大阪市長に対し、すでに緊急非常事態であるという認識に立ち、一刻も早く感染を強く抑え込むため、昼夜を問わない会食の自粛、マスクなしでの会話の禁止と人の密集を避けるために、従来以上の総合的な対策と保障を抜本的に進めることを要望します。

=以上=